

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	商工業振興に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	7	1	2	
政策	33活力ある産業を育成します	担当課室	商工振興課			
施策	332魅力ある商業の育成	担当課室長	葛山 順一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	補助団体の実情を見極め、調整を図りながら、補助金の交付を行い、商店街等の活性化につなげる。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	街路灯の維持管理に係る費用負担を軽減するため、各商店会に対し街路灯のLEDを推進する。
②①に基づく取組み結果	補助金の申請を行う際に、各商店街の個々のイベント事業に対する事業効果等を明確にし、検証をしたうえで補助金の交付を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	商工会、商店会連合会、ドリームカード会、市内13商店会	意図(対象をどうするのか)	補助金を通じ、商店街等の振興を図る。
②事務事業の概要	商工業振興補助金:商工会が行う経営改善普及事業や各商店会が設置している街路灯など共同施設の設置、イベント実施など共同事業に対して、市は補助金交付基準により補助する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	昭和63年当時に全庁的に実施された各補助金の見直しに併せ、商工会等の活性化及び育成のために創設された。ここ数年では大型店や全国展開するチェーン店の進出により、既存の商店会は厳しい立場に置かれているため、商店会の活性化及び育成は不可欠である。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	商工会及び商店街の活性化・育成を図るために補助金の支出を行った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	補助金交付額		24,801	21,955	28,229	千円	業務取得
	i						
	ii						
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算		
	事業費(千円)	21,956	30,333	金額(千円)	内容	33,803	
	国支出金(千円)		4,000	28,229	商工業振興補助		
	県支出金(千円)						
	市債その他(千円)						
一般財源(千円)	21,956	26,333			33,803		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	電気代の上昇などにより、各商店会で保有する共同施設(街路灯)の維持管理が困難となってきている。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	補助金交付基準の精査・検証を行い、商工会や商店会の育成及び活性化を図るため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	平成27年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績		当初		H26からの繰越	
		H26⇒27繰越			
③達成状況		補正		現年分	
		流用・充当			
④未完了・非着手の理由	平成28年度への繰越額(単位:千円)				

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	プレミアム付き商品券事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	7	1	2	
政策	33活力ある産業を育成します	担当課室	商工振興課			
施策	332魅力ある商業の育成	担当課室長	葛山 順一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	平成27年度のみのものであるため、前回の評価なし。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	平成27年度で終了のため、なし。
②①に基づく取り組み結果	なし		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民	意図(対象をどうするのか)	市民への消費喚起
②事務事業の概要	10,000円で13,000円分の買い物ができるプレミアム付き商品券を販売し、地域の活性化を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	国から交付される消費喚起・生活支援型交付金により実施。短期的な消費の底上げを目的としている。今後の実施については、国の動向等を注視していく。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	プレミアム付き商品券を46,000冊発行し、1次販売から4次販売まで行い45,952冊販売した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i 商品券販売数			45,952	冊	
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算	
事業費(千円)	0	157,141	金額(千円)	内容	0	
国支出金(千円)	0	101,298	155,915	補助金		
県支出金(千円)	0	55,841				
市債その他(千円)						
一般財源(千円)		2				

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	消費喚起につなげていく必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	単年度事業として、国の交付金を活用し実施したため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	平成27年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績		当初		H26からの繰越	
		H26⇒27繰越			
③達成状況		補正		現年分	
		流用・充当			
④未完了・非着手の理由	平成28年度への繰越額(単位:千円)				

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	空き店舗活用事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	7	1	2	
政策	33活力ある産業を育成します	担当課室	商工振興課			
施策	332魅力ある商業の育成	担当課室長	葛山 順一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	平成27年度のみのものであるため、前回の評価なし。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	より多くの方に活用してもらえよう周知を強化していく。
②①に基づく取り組み結果	なし		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内に出店しようとする者	意図(対象をどうするのか)	店舗数の増加による地域の活性化
②事務事業の概要	賑わいの創出を図るため、商店街の空き店舗を活用し、出店する人に対し、店舗改装費の総額2分の1(上限100万円)を補助する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	市内商店会については、売上減少や後継者問題等により店舗の閉店が増加し、シャッター街化している商店会が少なくない。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	平成27年度においては、地域住民生活等救急支援のための交付金(地方創生先行型交付金)により実施し、7件の補助金交付決定をした。				
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	算定根拠
	i 補助金交付件数			7件	業務取得
	ii				
	iii				
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算
事業費(千円)	0	6,602	金額(千円)	内容	5,000
国支出金(千円)	0	6,602	6,211	補助金	
県支出金(千円)	0				
市債その他(千円)					
一般財源(千円)					5,000

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	依然として、市内には多くの空き店舗がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	商店街の空き店舗を活用し、集客に役立つ施設及び店舗の開店など、賑わいの創出を図っていく必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	平成27年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H26からの繰越
		H26⇒27繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由	流用・充当				
	平成28年度への繰越額(単位:千円)				

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	観光ビジョン推進事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	7	1	3	○
政策	33活力ある産業を育成します	担当課室	商工振興課			
施策	332魅力ある商業の育成	担当課室長	葛山 順一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	・新たな観光振興策への着手 ・タウンミーティング等のリーディングプロジェクトを通じた市民の観光意識の醸成	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	引き続き、新たな観光振興策への着手タウンミーティング等のリーディングプロジェクトを通じた市民の観光意識の醸成を図る。
②①に基づく取り組み結果	タウンミーティングや高校生フォトコンテスト等を開催し、市民の観光意識の醸成を促した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民及び市内事業者	意図(対象をどうするのか)	事業を通して市民・市内事業者の郷土愛を育て、市外住民へのおもてなしの心を醸成する。
②事務事業の概要	平成25年度に策定した「観光ビジョン」に沿った観光振興策により、まちの活性化を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	市民や事業者を巻き込んだ事業が増加していく中で、今後市民が自立的に活動を広めていくことが理想的である。こういった市民の活動に対する補助施策の検討なども必要と考えられる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	ファイターズを共有資源とする札幌市にて、市長によるトップセールスや観光PRを実施した。県内の地域の魅力を再発見するため、高校生フォトコンテストを開催した。				
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	算定根拠
	i 高校生フォトコンテスト応募作品数	—	166	123	作品 業務取得
	ii 観光イベント実施回数	—	—	1	回 業務取得
iii					
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算
事業費(千円)	2,140	20,308	金額(千円)	内容	13,734
国支出金(千円)		17,955	839	印刷製本費	11,490
県支出金(千円)			18,845	委託費	
市債その他(千円)					
一般財源(千円)	2,140	2,353			2,244

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	市民や事業者を巻き込んだ事業が増加していく中で、今後市民自らが自発的に市の魅力を広めていく体制を整えていく必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	各施策を実施するにあたり、観光ビジョンに基づき、実現に向けて、より具体的な実施計画を策定する必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	観光振興事業	平成27年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	高校生フォトコンテスト等の観光振興施策の実施	14,184	33,106	当初	2,694	20,308	H26からの繰越	17,955
				H26⇒27繰越	19,000			
③達成状況	未完了			補正	11,490		現年分	2,353
④未完了・非着手の理由	国の地方創生加速化交付金を活用し、3月補正で繰越したため。			流用・充当	-78			
		平成28年度への繰越額(単位:千円)		11,490				